

## 六人の嘘つきな大学生

著者名： 浅倉 秋成  
出版社： KADOKAWA

成長著しいIT企業「スピラリンクス」が初めて行う新卒採用。最終選考に残った六人の就活生に与えられた課題は、一カ月後までにチームを作り上げ、ディスカッションをするというものだった。全員で内定を得るため、波多野祥吾は五人の学生と交流を深めていくが、本番直前に課題の変更が通達される。それは、「六人の中から一人の内定者を決める」こと。仲間だったはずの六人は、ひとつの席を奪い合うライバルになった。内定を賭けた議論が進む中、六通の封筒が発見される。個人名が書かれた封筒を空けると「●●は人殺し」だという告発文が入っていた。彼ら六人の嘘と罪とは。そして「犯人」の目的とは――。

## 残月記

著者名： 小田雅久仁  
出版社： 双葉社

近未来の日本、悪名高き独裁政治下。世を震撼させている感染症「月昂」に冒された男の宿命と、その傍らでひっそりと生きる女との一途な愛を描ききった表題作ほか、二作収録。「月」をモチーフに、著者の底知れぬ想像力が構築した異世界。足を踏み入れたら最後、イメージの渦に呑み込まれ、もう現実には戻れない――。最も新刊が待たれた作家、飛躍の一作！

## ミシンと金魚

著者名： 永井 みみ  
出版社： 集英社

認知症を患うカケイは、「みっちゃん」たちから介護を受けて暮らしてきた。ある時、病院の帰りに「今までの人生をふり返って、しあわせでしたか?」と、みっちゃんの一人から尋ねられ、カケイは来し方を語り始める。父から殴られ続け、カケイを産んですぐに死んだ母。お女郎だった継母からは毎日毎日薪で殴られた。兄の勧めで所帯を持つも、息子の健一郎が生まれてすぐに亭主は蒸発。カケイと健一郎、亭主の連れ子だったみのるは置き去りに。。暴力と愛情、幸福と絶望、諦念と悔悟……絡まりあつ記憶の中から語られる、凄絶な「女の一生」。

## あきない世傳 金と銀（十二） 出帆篇

著者名： 高田 郁  
出版社： 角川春樹事務所

浅草田原町に「五鈴屋江戸本店」を開いて十年。藍染め浴衣地でその名を江戸中に知られる五鈴屋ではあるが、再び呉服も扱えるようになりたい、というのが主従の願いであった。仲間の協力を得て道筋が見えてきたものの、決して容易くはない。因縁の相手、幕府、そして思いがけない現象。しかし、帆を上げて大海を目指すという固い決心のもと幸と奉公人、そして仲間たちは知恵を絞って様々な困難を乗り越えて行く。源流から始まった商いの流れに乗りいよいよ出帆の刻を迎えるシリーズ第十二弾！！

## 硝子の塔の殺人

著者名： 知念 実希人  
出版社： 実業之日本社

雪深き森で、燦然と輝く、硝子の塔。地上11階、地下1階、唯一無二の美しく巨大な尖塔だ。ミステリを愛する大富豪の呼びかけで、刑事、霊能力者、小説家、料理人など、一癖も二癖もあるゲストたちが招かれた。この館で次々と惨劇が起こる。館の主人が毒殺され、ダイニングでは火事が起き血塗れの遺体が。さらに、血文字で記された十三年前の事件……。謎を追うのは名探偵・碧月夜と医師・一条遊馬。散りばめられた伏線、読者への挑戦状、圧倒的リーダビリティ、そして、驚愕のラスト。著者初の本格ミステリ長編、大本命！

## 母の待つ里

著者名： 浅田 次郎  
出版社： 新潮社

生まれ育った場所だけが「ふるさと」ですか？ 現代人に本当の幸せを問う、著者最高傑作！ 上京して四十年、一度も帰ろうとしなかった郷里で私を温かく迎えてくれたのは、名前も知らない〈母〉でした――。家庭も故郷も持たない人々の元にカード会社から舞い込んだ〈理想のふるさと〉への招待。半信半疑で向かった先には奇跡の出会いが待っていた。雪のように降り積もる感動、全く新しい家族小説にして永遠の名作誕生！

## 砂嵐に星屑

著者名： 一穂 ミチ  
出版社： 幻冬舎

舞台はテレビ局。旬を過ぎたうえに社内不倫の“前科”で腫れ物扱いの四十代独身女性アナウンサー（「資料室の幽霊」）、娘とは冷戦状態、同期の早期退職に悩む五十代の報道デスク（「泥舟のモロトリアム」）、好きになった人がゲイで望みゼロなのに同居している二十代タイムキーパー（「嵐のランデブー」）、向上心ゼロ、非正規の現状にぬるく絶望している三十代AD（「眠れぬ夜のあなた」）……。それぞれの世代に、それぞれの悩みや壁がある。つらかったら頑張らなくてもいい。でも、つらくたって頑張ってみてもいい。続いていく人生は、自分のものなのだから。

著者名：  
出版社：